http://hokkaido-poland.com/pole.html

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第2号　1987，12，30

発行
北海道ポーランド文化協会
〒060　札幌市中央区北2西2
道特会館　NDA画廊内
電話　221-8672

講演と演奏

シマノフスキ……人と音楽

講演　マリア・マテイ教授
（ポーランド科学アカデミー国家と法研究所　労働法部長）

ピアノ演奏　中村玲子・大和田りえこ

主催　北海道ポーランド文化協会
後援　札幌国際交流プラザ
日時　昭和六十三年一月二十三日（土）午後2時より
場所　札幌国際交流プラザ
（中央区北一条西三丁目　札幌MNビル）
（入場無料）

マリア・マテイ教授

【内容】

まずシマノフスキの生涯について簡単な説明を行い、ピアノの演奏をはさんでポーランドの音楽を概説し、その中におけるシマノフスキの位置について話します。またシマノフスキの代表的な作品を選んで、テープでお聞かせする予定です。

ピアノ演奏

中村玲子　作品五十一―十二

エチェード　作品四―三

大和田りえこ

エチェード　作品三―十一

マズルカ　作品五十一―十

演奏（テープ）

ロクサーヌの歌
（歌劇〝ロゲル王〟から）　作品四六

スタバート・マテル　作品五三

【マリア・マテイ教授の横顔】

マテイ教授は、ワルシャワにあるポーランド科学アカデミー国家と法研究所の労働法部長。豊富な国際経験を背景に、国際的な観点からポーランド労働法の現状を診断し、改革の提言をするのが主な仕事です。この十月に、夫のマリアン氏とともに初めて来日し、北海道大学法学部の研究員として日本の労働法と労使関係の研究にたずさわっておられます。

同時に、ポーランド・シマノフスキ協会の一員として、ショパンの陰にかくれて国外ではあまり知られていない作曲家、シマノフスキ（一八八二～一九三七）の音楽の魅力を日本に伝えることに、強い熱意をお持ちです。学問の道に進んで活躍されている今日ですが、一時は音楽学校で学んだこともあるとのことです。

スタシスさんのこと

佐々木　秀明

去年、ＮＤＡ画廊で、小さな銅版画ばかり集めたスタシス・エイドリゲヴィチウスというポーランドの画家の個展が開かれました。星空に続く線路に枕木を並べる男、そんな切ない孤独なイメージと奇妙なユーモアが交錯する、不思議な作品でした。僕は画家の、夜更けの静かな仕事場を想像していました。

この秋、初めてその画家に会うことができました。ＮＤＡ画廊で開かれる個展のために、この画家がワルシャワから札幌にやってきたからです。今回の展覧会の作品は、テンペラとグヴァッシュで、少年・老人・男・女・星や鳥がモチーフでした。暗い背景、ぽつんと荒野にたたずむ孤独な魂、そんなメランコリックなイメージは、時に終末観的な印象を受けてしまいました。しかし、ペシミズムに流れないのは、画面の詩的な空気と、人と人、人と鳥、人と大地とが交感し得る、そんな気持ちになれるからかもしれません。会場で彼の絵本や仮面の作品の写真を見ることができました。豊かな色彩や、イメージの多様なひろがりに驚きました。夜更けの密室の仕事場、そんな僕の勝手な思い込みは素敵に裏切られたのでした。僕もささやかながら小さなオブジェを作っています。僕の作品の写真を見せながら、画廊の長谷川さんが、スタシスさんに紹介してくれました。数日後、画廊から電話がありました。仕事のできる場所が欲しいらしい。

「小さな部屋ですが机とベッドならありますよ。」

一週間、我家に泊まることになりました。我家は父母・妹・弟・僕と猫一匹という家族構成です。勤めの関係で、夕食に家族全員が揃うことは、まずありません。母はそれが気がかりの様でした。それに外国のお客様を迎えるのは初めてのことです。

「ポーランド語なんて全然わからないね。」

「英語が話せるそうだよ。」

「そりゃ良かった。ところでうちは誰が英語話すの？」

思わず顔を見合わせて笑ってしまいました。誰もまともに話せないのです。

彼は大きな荷物を持って現れました。二つの大きな鞄には、ポスターや絵本、絵の道具や描きかけの絵が山ほど詰まっているのでした。午後、弟と彼と三人で海に行きました。貝殻や小石や木切れを拾いながら、人気のない海辺を散策しました。帰り際、彼は砂浜に大きな大きな絵を描きました。少年と鳥と魚です。魚の尾ひれは海の中まで続いています。ヨーロッパの広場で見かけるストリート・パフォーマーの話をしました。僕の口ごもりがちな拙い英語を辛抱強く聞いてくれました。口を閉ざしてしまうより、知っている言葉でシンプルに言い換えれば、正確じゃないかもしれないけれどかなりの事は伝えられる。彼はそう言って励ましてくれるのです。

一週間の間にポーランドのこと、彼の家族のこと、絵のことなどについて話ができて、少しずつ世界が広がって行く手触りは楽しいものです。夜の十時頃やっと家族が揃います。一杯やりながら、おしゃべりしながら、彼はペンを走らせます、その日の出来事、昨日の映画、僕の家族や猫、訪ねてきた友人たち、それらがきっかけになって、スラスラと絵が出来あがる様は楽しくスリリングでさえあります。ちょうど手品、ちょ

海岸で絵を描くスタシスさん

っとした魔法を見ている様です。家族の集まる夜の小一時間、その雰囲気を彼はとても気に入っている様子でした。

息子さんの誕生祝いにラジコンカーを買いにいったこと、家族と一緒に開拓の村に行ったこと・・・・。楽しい、刺激的な、あっという間の一週間でした。居間には彼の残していってくれた絵が掛けてあります。いつの日かワルシャワの彼のアトリエを訪ねたいものだと思います。今度は僕が鞄に山ほど作品をつめこんで。

（インテリアコーディネーター）

【投稿】

夢の民族・未知の言語

藤原興生

作家の司馬遼太郎氏のモンゴル、ロシア関係の様々なエッセーの中に、氏が少年時代から憧れ続けてきたブリヤート・モンゴル人について描写されている。これらの著書は、司馬氏得意の筆づかいで歴史観、民族観を著し、読者を魅了してやまない。

司馬氏の言うところの夢の憧れの民族は、私にとってはポーランド人である。

一九八〇年から八一年には、連帯運動が盛んになり、全世界が固唾をのんで注目していた時、私は札幌市中央区宮ノ森に住む中学生であった。八一年の六月に西区発寒に越してきたが、中学生の頃の私は、ロシア語に興味を持ち始めロシア人を民族として非常に意識していた。そして、ポーランドやロシアについて考えたりしていた。

同年十二月にポーランドに戒厳令施行の事態。この頃、東ドイツの少女と文通を始めていた私は、隣国のこの人達はどう見ているのであろう、などと考えていた。また、ロシア人達はこの事態をどう聞いていたのか。

ロシア人といえば、十月に札幌で某協会のシンポジウム主催のパーティーの場で西シベリアのオムスクで建設関係の化学技師をしているガリーナという女性と親しく話し込んだ。

オムスクには、ドストエフスキーが一八五〇ー五四年まで政治犯として懲役刑に服していた都市として有名であり、私自身もこの大作家がオムスクでの体験をもとにして書いた「死の家の記録」を翻訳で近々読むつもりであったので、私のつたないロシア語で、オムスクにはドストエフスキーがおりましたですね、と聞いてみた。彼女は私の質問に対し、そうです、と相づちをうつやいなや、そのことについて詳しく説明してきた。残念ながら私には彼女のロシア語を理解する能力がない。

オムスクの監獄には、ポーランド人の貴族もいた。「死の家の記録」の中で、ドストエフスキーは、彼等の事もロシア人の目で鋭く記述しているし、彼の他の作品にもポーランド人が登場してくるそうだ。その事が頭にあったので、オムスクに住んでいるガーリナさんにポーランド人をどう思いますか、と聞いてみた。それに対して彼女は、こういう民族的な事には関心がないのか、答えようがないのか、白けた表情を顔に出した。

私は彼女の様子から私のロシア語がはっきり通じなかったと思い、日本人の通訳を介して再度聞いてみた。彼女は未だかつてポーランド人を見た事がなく、何とも言いがたいと言ってきた。これは、もっともな話である。ただ私としては、本能的に民族として語ってもらいたかったので、でも同じスラヴ民族な訳でしょ、と単刀直入に言ってみた。すると彼女は、〝ダー、ダー〟と言うと、スラヴという事ね、と私の意味する事を悟り、自分達は、ポーランド人の言っている事を全部ではないが、部分的に理解できると言っていた。

彼女は又、自分達のスラヴ語の共通性を日本語と朝鮮語の関係と同じであると信じているらしい。

ポーランド語といえば、八一年にポーランドの情勢が動揺していた頃、テレビのニュースで、ポーランド人のアナウンサーや政治家の話すポーランド語が最初であった。今にして思うと、当時の情勢がきっかけになった事は確かだと思う。少年の頃、何かにつけてロシア語の響きを聞い

ていた自分にとって、最初のポーランド語を聞いた時は、ちょっとした驚きであった。今でもポーランド語というのは、やたらに子音が続いて小刻みに発音される上に、最後の部分に〃シチ〃とか〃ジェ〃で終わる語彙が多いという気がしている。

この頃、大通りの紀伊国屋書店の語学書売り場に行くのが何よりの楽しみであった。今でも変わらないが、英独仏の教材が山をなしていたが、これに対抗するかの様に白水社刊の未知の言語シリーズの「ポーランド語の入門」、「チェコ語の入門」、「ルーマニア語の入門」など東欧の諸言語の入門書が並べられていた。「ポーランド語の入門」が私の興味を引いた。この時不思議に思ったのは、何故ロシア語はキリル文字で、ポーランド語はラテン文字かという事であった。又、格変化の名称が両言語とも、主格、生格、与格などと表示されているのも面白いと思ったものだ。それ以来、ポーランド語は私にとってロシア語同様専攻したいとまで思った神秘的な言語になった。

私には、ヴロツワフ市に住む文通相手、アンジェイ・アマノヴィチ君がいる。彼からは、わずかしか便りは来ないが、充実した内容の手紙をくれる。

片言のポーランド語で将来ポーランドを旅するのが私の大きな夢である。

（学生・発寒在住）

ショパン全曲演奏シリーズ 第十三回（全十五回）

日時　一九八八年三月十八日（金）
場所　札幌教育文化会館小ホール
曲目
ノクターン　作品六二
ベルシューズ　作品五七
バルカローレ　作品六〇
ポロネーズファンタジー　作品六一
マズルカ　作品六三
作品六七
作品六八
チェロソナタ　作品六五
出演者
渡辺卓
山岡望
白石朋子
清野尚也
村井将

第六回北海道ショパン 学生ピアノコンクール

予選　一九八八年四月二十九日（金）および五月一日（日）
本選　一九八八年五月三日（火）
場所　北海道新聞社ホール
※課題曲は左表の通りです。

訃報　本会会員の佐々木重人氏は、去る十一月四日、札幌医大病院で急逝されました。謹んでご冥福をお祈りします。

訂正　前号「設立総会開かれる」の記事中「中村美由紀氏」とありましたのは、「中川美由紀氏」の誤りでしたので、おわびして訂正します。

課題曲

部門	予選課題曲	本選課題曲
小学生の部	・ワルツ　作品42 変イ長調 ・ワルツ　作品70-2 ヘ短調 ※2曲中より1曲選択演奏	・即興曲　作品29 変イ長調 ・ポロネーズ　遺作 変イ長調 ※2曲中より1曲選択演奏
中学生の部	・練習曲　作品25-5 ホ短調	・スケルツォ　作品31 変ロ短調 ・スケルツォ　作品39 嬰ハ短調 ※2曲中より1曲選択演奏
高校生の部	・練習曲　遺作　ヘ短調 ・練習曲　作品10-1 ハ長調 ※2曲とも演奏	・バラード　作品47 変イ長調 ・幻想曲　作品49 ヘ短調 ※2曲中より1曲選択演奏

※予選・本選ともすべて課題曲のみの演奏で自由曲はありません。
※演奏はすべて暗譜とします。

北海道ポーランド文化協会

会員名簿

昭和六十二年十二月三十日現在

相原　ちえ
相原　哲
赤石　ひとみ
朝倉　利光
有江　朝恵
安念　智康
池上　喜美子
市川　恒樹
伊東　孝之
伊藤　政蔵
伊東　美枝子
伊藤　裕佳子
伊藤　良策
今村　成和
今村　ミチ
上田　亨
薄井　豊美
内山　とよ子
遠藤　江理子
遠藤　道子
大賀　淳
大賀　廸子
大西　郁夫
大井　清美
大内　睦弘
大沢　映二
太田　嘉四夫
太田　三恵子
大竹　貞
大堀　克美
岡倉　秀明
小笠原　正明
小田原　未来
乙丸　和馨子
柏原　朝子
方波見　雅夫
片山　明石
加藤　令子
門脇　優子
河原木　美智子
菊池　哲
北村　千寿子
北村　美和子
清野　幸子
工藤　正廣
國田　祐作
國谷　聖香
基子
粟生沢　猛夫
黒河　好子
黒田　信一郎
古賀　紀子
小谷　ふき子
児玉　広夫
小林　暁子
小林　修
小林　貴美子
小森田　秋夫
小山　皓一郎
斎田　道子
斉藤　登美子
坂本　桂子
佐合　ふみ
佐々木　秀明
佐野　政晴
沢村　貞史
柴田　鋹光
島田　ツタ子
清水　保子
霜田　千代麿
下村　五三夫
真光　孝美
ウィリアムス　J
末永　章子
鈴木　秀一
鈴木　瑠糸
瀬川　綾子
関　啓一
関村　英治郎
相馬　純吉
相馬　久子
園家　広子
園田　節子
田尾　美江子
高岡　健次郎
高島　真知子
武田　ひろ子
武田　真紀子
竹田　正直
竹村　泰子
谷本　一之
谷本　美智子
田原　富子
田畑　昌祥
多米　実
釣谷　景子
外川　継男
富田　雅博
富山　信夫
中川　W美由紀
中島　洋
中田　千鶴
中田　靖泰
中田　耀子
中村　みどり
中村　玲子
仁井　英治
野谷　恵
灰谷　慶三
蓮見　孝男
長谷川　洋行
長谷川　文彦
匹田　軍次
福原　秀貴
藤家　壮一
藤枝　キリ子
藤岡　喜久男
藤田　彰美
藤森　祐子
藤原　勲夫
藤原　興生
布施　英憲
細川　真理子
本間　富雄
牧田　吉明
松井　俊和
松岡　正治
三浦　淳子
三澤　正博
水田　香
茂泉　聖紀子
望月　哲男
森　喜代子
森　ひとみ
森　ヒロコ
森田　憲
森永　藤子
森本　久三
横路　朋子
横山　隆
吉田　邦子
吉田　宏
吉富　八重子
吉野　悦雄
吉原　和夏子
吉本　康子
依田　豊章
渡辺　恵子
渡辺　晋道
渡辺　卓
渡辺　洋子
和田　完

【団体会員】

ナウカ札幌営業所
パブリックセンター
北海楽器
日通札幌旅行支店
東洋紡
河合楽器北海道支社
ヤマハ札幌店

POLE 第 2 号（1987.12.30）目次

〈第 2 回例会〉「シマノフスキ～人と音楽」（講演：マリア・マティ教授［ポーランド科学アカデミー国家と法研究所労働法部長］、ピアノ演奏：中村玲子、大和田りえこ、1988.1.23）のお知らせ…… 1
佐々木秀明「スタシスさんのこと」…… 2
藤原興生「夢の民族・未知の言語」…… 3
ショパン全曲演奏シリーズ第 13 回（1988.3.18）、第 6 回北海道ショパン学生コンクール（1988.4.29）のお知らせ…… 4
北海道ポーランド文化協会会員名簿（昭和 62 年 12 月 30 日現在）…… 5